

徹底分析  
シリーズ

## 歯科麻酔科医のこれから：医科麻酔研修でのギャップを埋める

## 患者への適切な説明と同意書の取得

32a  $\text{H}^+$   
 $\downarrow$   
 $\text{H}^+$

[illegible]

五代 幸平  $\rightarrow$  15a 新M

歯科医師の医科麻酔科研修において、同意書の取得はとても重要である。当然ながら、患者の同意なしには研修どころか医療も行うことはできない。患者の自己決定権を尊重することは必須であり、そのためにどのように患者に説明を行うのか。

本稿ではガイドラインを中心に、患者への説明と同意書取得の実際を解説する。

13a 17g / 明新  
↓  
22 H  
17 W 3

16a ロタンB  
 ↓ (4x)  
 (17) H  
 ともに同意

そもそも、麻酔の説明と同意（もしくは拒否）

インフォームドコンセント informed consent (IC) とは、ご存じのとおり、説明を受けたうえでの同意である。ただし、単に説明を行っただけでは十分でない。説明した内容を患者が理解し

② うえで、同意することが必須である。  
なお、日本では言及されることが少ないが、ここで informed refusal (IR) についても触れておきたい。IR とは説明を受けたうえでの拒否である。IC とは、患者の自己決定権を尊重するためのものであり、そのためには患者には IR の権利も保障されなければならない。拒否する権利がなければ、それは強制であり同意ではない。つまり IR なしに IC は成立し得ない。

それでは麻酔の説明を行ったうえで、患者に麻酔法を自由に選択してもらえばよいかというと、そうではない。なぜなら、患者は医学的知識に乏しく、いくら丁寧に細かく説明しようとも最適な麻酔法を選択することは難しいからである。ここに医療の特殊性がある。つまり、患者と医師は医学的知識において対等ではなく、患者は医学的な情報などを本質的に医療者に依存してい

る。そのため医療者は、患者に対して適切に医学的な情報を説明しなければならない。麻酔の説明においては、各麻酔法の利点・リスクを伝え、その麻酔法を選択しなかった場合の経過や代替手段についても説明したうえで、麻酔科医が最も適していると考える麻酔法を提案する必要がある。

## 歯科医師の 医科麻酔科研修のガイドライン (コラム)

2008年に改訂された『歯科医師の  
医科麻酔科研修のガイドライン』に  
は、患者の同意について「研修指導者  
の資格を有する医師が、別紙3を参  
考として、歯科医師が研修の目的で麻  
酔行為に参加することを説明し、同意  
を得ること」と記載されている<sup>2)</sup>。こ  
こで「別紙3」とは同意書の例示であ  
る。このガイドラインで示されている  
同意書は、麻酔の説明・同意書に「なお  
麻酔は麻酔科医師が担当いたしますが  
その指導・監督のもとに歯科医師が医  
科麻酔科研修を実施いたします」とい  
う一文が記載されている。つまり、麻  
酔同意書と医科麻酔科研修同意書が一  
体となったものである。病院によつて  
はこのような一体型の同意書が使用さ  
れているところもあるかもしれないが

39 それだと、麻酔については同意するが、  
歯科医師による麻酔を受けることは同  
意したくないという IR を保障してい  
るとはいえない。鹿児島大学病院（以  
下、当院）では、歯科医師の医科麻酔  
科研修だけでなく救急救命士の挿管実  
習や学生実習の個別同意書も取得する  
場合がある。そのため、麻酔同意書と  
は別に歯科医師の医科麻酔科研修同意  
書（図1）を取得している。用紙を別  
にしたほうが、麻酔には同意するが研  
修には同意しないという権利が保障さ  
れていることが患者にわかりやすい。

## 医科麻酔科研修説明の流れ (当院の場合)

当院の医科麻酔科で管理する手術症例は、緊急手術を除く全例で周術期外来を受診するようにしている。周術期外来では初めに問診票とともに各研修（医科麻酔科研修や救急救命士挿管実習について）の説明・同意書を渡して、患者に目を通してもらっている。そして麻酔の大まかな説明では先に動画を視聴してもらい、医師による説明時間を短縮している。当院では医科麻酔科研修の対象症例の選定は、『歯科医師の医科麻酔科研修のガイドライン』をもとに判断している。胸部外科（呼吸器外科・心臓血管外科）と産科を除く、全身麻酔予定で重篤な合併症がない症例を研修対象症例としている。対象症例には、術前外来担当医（麻酔科認定医もしくは麻酔科専門医）が、麻酔の説明と同意の取得後に医科麻酔科研修の説明と同意書の取得を行っている。本原稿執筆時点で、週4日研修を行っている歯科麻酔科医が2名と週1日研修の歯科麻酔科医が2名の

徹底分析シリーズ 色ベタ+ズミ20% (以下同)

## コラム

色バタ・ズミ10% { 歯科医師の医科麻酔科研修の実情と } 1/4a → ⑧  
今後のガイドライン改訂について } 新訂M (16) H

2002年にいわゆる旧ガイドラインと呼ばれる「歯科医師の歯科麻酔科研修のガイドラインについて」が通知され、2008年に現在のガイドラインに改訂された<sup>2)</sup>。このときのガイドライン改訂の要点は以下の3点である。

①研修症例における麻酔の責任担当者は研修指導者であり、麻酔記録上の筆頭者となること。

②歯科医師が研修の目的で麻酔行為に参加することを説明し、個別に同意を得ること。

③研修を受ける歯科医師と研修施設の麻酔科の長は、当該歯科医師の研修開始時および研修終了時に所定の方式によって必要な事項の登録または報告等を行うこと。当然ながら医科麻酔研修を受ける歯科医師も受け入れる医科麻酔科側も、ガイドラインを遵守する必要がある。それは患者の自己決定権を尊重するためでもあるし、歯科医師が医師法をまたいて医科麻酔科研修を行うためにも必要なことである。

しかしながら2021年の「歯科医師の

「医科麻酔科研修実施状況調査分析」報告書によると、ガイドラインが遵守されていない実態が明らかとなった<sup>3)</sup>。例えば、同意取得方法では文書で説明し、個別同意を取っていると回答した医師は半数に満たなかった。また麻酔記録での筆頭者を研修指導者として回答した医師も60%弱にとどまった。この状況調査をふまえて、歯科医師の医科麻酔科研修等に関する検討会が行われた<sup>4)</sup>。この検討会は2回にわたって行われており、その議論の内容も議事録で公開されている<sup>5, 6)</sup>。議事録を読むと医科麻酔科研修の現状について、さまざまな問題点があることがよくわかる。2024年には「歯科医師の医科麻酔科研修のガイドライン改訂のための研究」が厚生労働科学特別研究として採択されている<sup>7)</sup>。2025年の日本麻酔科学会第72回学術集会でも講演があったが、ガイドラインの改訂が予定されているようだ。改訂されたガイドラインが発表された際には、適切な医科麻酔科研修を継続するために熟読のうえ遵守していただきたい。

計4名の歯科麻酔科医が研修を行っている、全身麻酔管理症例の約1割、概ね1日1～2件が、歯科麻酔科医の研修症例となっている。

説明と同意の  
実際

当院で医療麻酔科研修の対象としているのは全身麻酔症例で、胸部外科・産科は対象外としている。周術期外来に来院した時点で対象となり得る患者には、医療麻酔科研修の説明・同意書(図1)を渡して目を通してもらっている。説明・同意書を渡す際に、対象となる患者には個別に後ほど説明することを伝

10a  
127/明翰 (w3)

GODAI, Kohei  
鹿児島大学大学院歯医学総合研究科  
侵襲制御学

0.5割ケリ・色バツ・干地 140ml

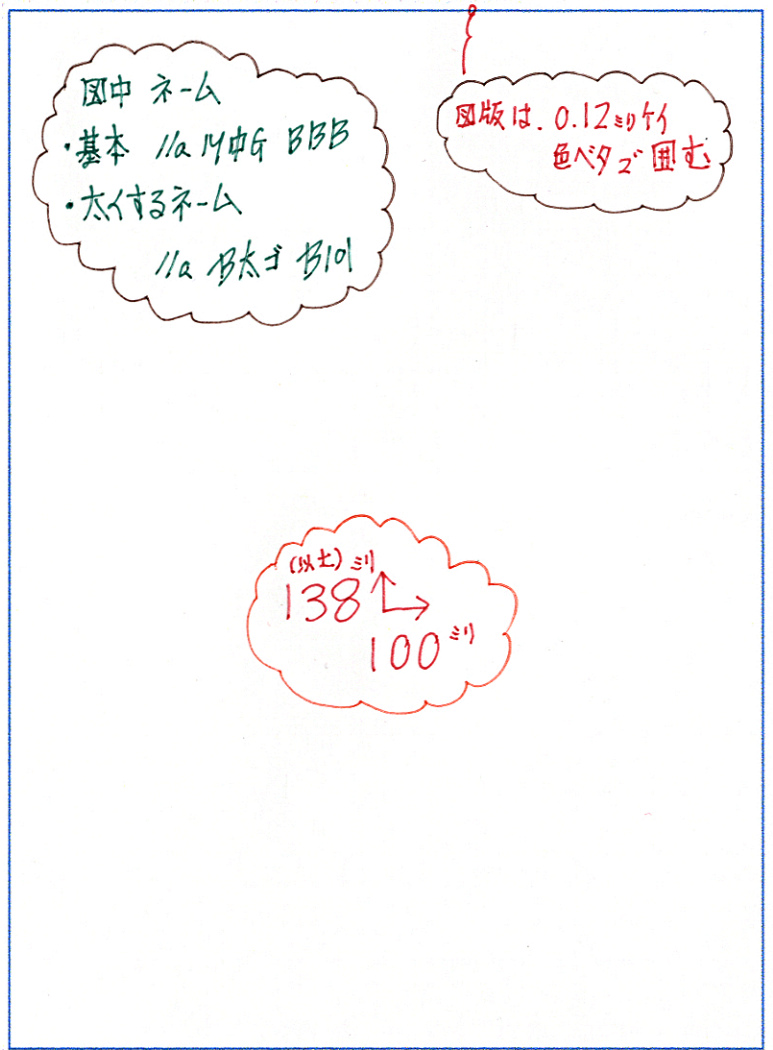


徹底分析  
シリーズ

歯科麻酔科医のこれから：  
医科麻酔科研修でのギャップを埋める

色ベタ

▼図1 歯科医師による麻酔研修についての説明・同意書



12 えている。その後の診察で医科麻酔科  
研修に適している症例と判断したら、  
歯科医師の医科麻酔科研修の説明を行  
っている。医科麻酔科研修には、以下  
の2種類の目的がある。つまり歯科麻  
酔科医として全身麻酔を中心とした麻  
酔管理に関連する知識・技術を習得す  
るための研修と、口腔外科学会認定医  
を取得するために必要な全身管理の研  
修である。当院での医科麻酔科研修は  
歯科麻酔科医としての研修がほとんど  
である。まず歯科麻酔科医の説明を行

い、全身麻酔を中心とする研修が必要  
であることをお話する。そして、末梢  
静脈路確保を含めた全身麻酔管理を歯  
科麻酔科医が担当するかもしれないこ  
とを説明する。ガイドラインでは研修  
指導者は麻酔科指導医・麻酔科専門医  
または麻酔科認定医となっているが、  
当院では麻酔科専門医が指導を行って  
いる。そのため患者にも、麻酔科専門  
医が必ず一緒に麻酔を担当し歯科麻酔  
科医の指導・監督を行うことをお伝え  
している。患者には「安全第一で麻酔

研修を行うこと」「医科麻酔科研修は  
患者の厚意で行わせていただいている  
こと」「医科麻酔科研修に同意いただ  
いても、同意いただかなくても、今後  
の治療や麻酔にはまったく影響がない  
こと」「同意はいつでも撤回できるこ  
と」を必ず説明している。患者からは  
「安全なんですよ？」と安全性を確認  
されることが多い。安全性への質問  
に対しては、「麻酔科専門医と一緒に担  
当し、指導する。安全第一に麻酔を行  
う」と回答しており、筆者の知る限り、  
同意を撤回する患者はほとんどおらず、  
大きなトラブルとなった症例もない。

説明をしているときには患者の表情  
や態度に注意し、不安をやわらげる配  
慮が必要である。どんな場合にも患者  
の不利益とならないように注意する。  
筆者は常に「この患者が自分の家族だ  
ったら、どうするか？」と考えるよう  
に心がけている。患者は基本的に治療  
のために手術室に来るのであり、医  
科麻酔科研修のために来ているのでは  
ない。そのため患者が不安そうであれ  
ば、筆者は「ご不安ですよ？ 治療  
が第一なので、今回は研修はなしにし  
ましょう」と言って同意取得を行わな  
い。このような方法で医科麻酔科研修  
の同意書を取得しているが、筆者の実  
感として70～80%の患者から同意  
が得られる。

色ベタ {患者の同意が得られなかった場合の  
情報共有(当院の場合)}

医科麻酔科研修同意書の有無は、電子  
カルテで確認可能である。そして医科  
麻酔科の週間予定表にも、医療クラ  
ークがチェックをしている。医科麻酔科  
医および研修中の歯科医師は週間予定

14 表と電子カルテで、それ以外の職種は  
電子カルテで患者の同意の有無を確認  
している。当日の医科麻酔科責任者が  
同意の有無を確認し、研修症例を決定  
する。

15 歯科医師の医科麻酔科研修における説  
明と同意書の取得について、当院での  
筆者の方法を中心に解説した。最後に  
ガイドラインを遵守し、患者の自己決  
定権を尊重することの重要性を強調し  
ておきたい。医科麻酔科研修は必要だ  
が、それが患者の不利益となってい  
けない。

色ベタ

文献

1. Lucero J, Braddock CH 3rd, Van Nor-  
man GA. Ethical aspects of anesthesia  
care. In : Gropper MA, Cohen NH,  
Eriksson LI, et al, eds. Miller's Anes-  
thesia. 10th ed. Philadelphia: Elsevier,  
2025 ; 114-31.
2. 日本麻酔科学会. 歯科医師の医科麻酔科  
研修のガイドライン. 2008年6月. <https://anesth.or.jp/files/pdf/20080620.pdf>  
(2025年6月24日閲覧)
3. 厚生労働省. 厚生労働省委託事業「歯  
科医師の医科麻酔科研修実施状況調査  
分析」報告書. 2021年3月. [https://jdsa.jp/project/mhlw\\_entrust.html](https://jdsa.jp/project/mhlw_entrust.html)  
> [https://jdsa.jp/media-down-  
load/116/616075e3c8bccaab/PDF/](https://jdsa.jp/media-download/116/616075e3c8bccaab/PDF/)  
(2025年6月24日閲覧)
4. 厚生労働省. 歯科医師の医科麻酔科研  
修等に関する検討会 報告書. 2023年  
8月. [https://www.mhlw.go.jp/con-  
tent/10804000/001141377.pdf](https://www.mhlw.go.jp/content/10804000/001141377.pdf) (2025  
年6月27日閲覧)
5. 厚生労働省. 歯科医師の医科麻酔科研  
修等に関する検討会(第1回)議事録.  
2022年4月. [https://www.mhlw.go.  
jp/content/10804000/000968580.pdf](https://www.mhlw.go.jp/content/10804000/000968580.pdf)  
(2025年6月27日閲覧)
6. 厚生労働省. 第2回歯科医師の医科麻  
酔科研修に関する検討会 議事録. 2022年  
7月. [https://www.mhlw.go.jp/con-  
tent/10804000/001099936.pdf](https://www.mhlw.go.jp/content/10804000/001099936.pdf) (2025  
年6月27日閲覧)
7. 宮脇卓也. 歯科医師の医科麻酔科研修の  
ガイドライン改訂のための研究. 2024.  
[https://mhlw-grants.niph.go.jp/proj-  
ect/178052](https://mhlw-grants.niph.go.jp/project/178052) (2025年6月27日閲覧)

1/2 A.D.